

栃木県産地下生子菌類

大前宗之* ((株) 北研)・折原貴道 (神奈川県博)

栃木県は関東地方北部に位置する海岸線を有さない内陸県である。平野部に見られる森林の多くはスギ・ヒノキの人工林や、コナラやクヌギを主体とした二次林であるが、神社などにはシイやカシの天然群落が一部残存する。北部および北西部は標高が 500 m を超える山脈が連なり、標高 500~1,500 m ではミズナラやモミ、ウラジロモミなどの混合林が、1,500 m を超えると人為的な介入の少ないシラビソやコメツガを主体とした亜高山針葉樹林帯が残されており、これらの山岳地帯の広い地域は日光国立公園に指定されている。すなわち栃木県は標高差が非常に大きい地域であるため、垂直分布によって生育する樹種が大きく異なり、これらの樹木と共生する地下生菌の多様性も高いと推測される。

中でも日光周辺は古くから生物多様性が高いことで知られる地域である。菌類に関しても一部研究者により調査がなされ、ザラメタケ *Resinomycena japonica* Redhead & Nagas. やニッコウサンアカキクラゲ *Dacrymyces nikkomontanus* Kobayasi などは本地域をタイプローカリティーとして記載された種である。また、地下生菌としては、今井三子によりニッコウクロツチダンゴ *Elaphomyces nikkoensis* S. Imai が、小林義雄により分類学的位置が未決定な不完全菌である *Pseudorhizopogon sudae* Kobayasi がそれぞれ記載されているが、いずれも原記載論文以外での記録がほとんどなく、その実態に関してはいまだに不明確である。

以上のことから、本県には数多くの種の地下生菌が存在すると推測され、なおかつ地下生菌の分類学的な歴史においても無視できない地域であるが、これまで本県における地下生菌の包括的な研究は行われてこなかった。そこで、演者は栃木県レッドリストの調査の一環として、2013年から2016年にかけて、栃木県の二次林や天然林、農地や亜高山針葉樹林帯に至るまでの地下生菌を含む大型菌類相の調査を行った。その中でさまざまな種類の地下生菌を採集し、中には未記載種や未報告種と思われる種も多く含まれた。本発表では特筆すべき栃木県産地下生子菌類として *Hydnobolites*、*Mattiolomyces*、*Hydnotrya*、*Tuber*、*Genea* および *Elaphomyces* に含まれる種を紹介し、それらの生態についても考察する。